

ChatGPT に聞いてみた なぜ富士フィルムの成功したか



「富士フィルムは今ではフィルム事業は 1%収益は医療機器、医薬品、化粧品と展開して成功した、しかしアメリカのコダックは倒産した、この違いは」

ChatGPT:

とても良い問いですね。フジフィルムとコダックの明暗を分けた要因はいくつかありますが、最も大きな違いは**「危機感と経営判断の差」**にあります。

以下に、両社の違いをポイントでまとめます:

1. 富士フィルム: 変化を恐れずに「自己破壊」

- 2000 年代初頭にデジタル化の波を早期に認識。
- 写真フィルム事業の縮小を前提に、事業の多角化に積極投資。
- 化粧品(アスタリフト)、医薬品、再生医療、医療機器(内視鏡など)などに進出。
- コア技術(化学技術、ナノテク、コラーゲン研究など)を応用して他業界へ展開。

2. コダック: 変化を拒んだ「成功の罠」

- 実はコダックも世界初のデジタルカメラを 1975 年に開発していた。
- しかし「フィルム事業が儲かっていたため」、デジタル化への本格投資を避けた。
- フィルム需要が急減する中、構造改革が遅れ、時代に取り残された。
- 2012 年に破産法(チャプター11)を申請。

3. 企業文化とリーダーシップの違い

- 富士フィルムは「**第二の創業**」と呼ばれる大改革を断行。
 - 元社長の古森重隆氏のリーダーシップが大きい。
- コダックは保守的な企業文化が根強く、「変革より現状維持」を選んだ。

まとめ

富士フィルムとコダックの違いは一言で言えば: 「**未来に備えて変化できるか**」

ということです。